

受診の流れ (免疫細胞治療)

まずは、お問い合わせください [092-281-0511](tel:092-281-0511)

ご不明な点について案内いたします
資料を送付いたします

医師の説明、相談および治療を希望の方は
診療の日程を調整します。《予約制》

治療(相談)来院
治療方法の説明と選択等について医師相談のうえ、
必要な検査を実施します

治療開始
検査結果を参考に適宜治療を開始します。



瀬田クリニックグループ：特定連携医療機関

福岡メディカルクリニック
FUKUOKA MEDICAL CLINIC

がん免疫細胞治療

がん予防医学

CANCER PREVENTIVE
MEDICINE

がん免疫
細胞治療

ONCOIMUNOLOGY/
CANCER IMMUNOCYTOLOGY
THERAPY

先制医療

・
ウェルネス

PREEMPTIVE MEDICINE
& WELLNESS



瀬田クリニックグループ：特定連携医療機関

福岡メディカルクリニック
FUKUOKA MEDICAL CLINIC

〒812-0025

福岡県福岡市博多区店屋町6-18 ランダムスクエア 5F

TEL 092-281-0511

FAX 092-281-0522

Mail info@scg-fmc.com

URL <https://scg-fmc.com>

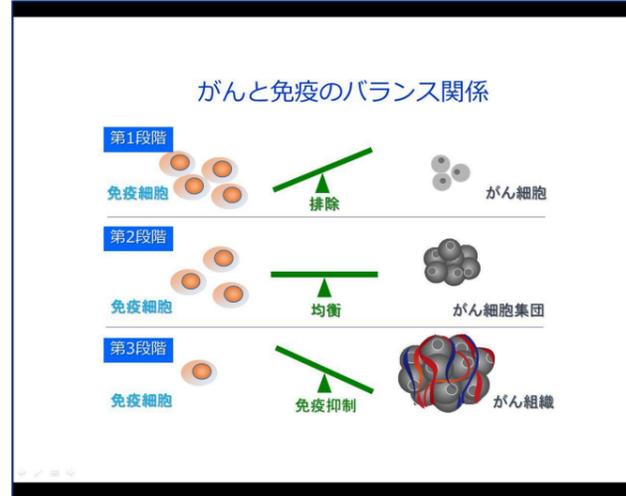
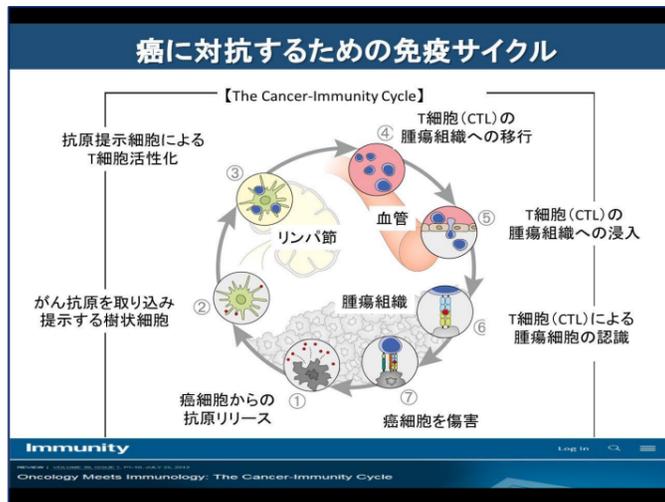


診療時間 月～金 10:00～12:30
13:00～17:00
(予約制) 休診日 土・日・祝



福岡メディカルクリニックの免疫細胞治療

健康な人でも、遺伝子異常の結果、1日に数千個もの異常な細胞が体内に生じていると言われています。しかし、全員が必ずがんを発症するわけではありません。それは、からだに備わった“がん免疫”という仕組みが常に監視して、偶然に発生した異常細胞を排除するよう働き、がんとして発症するのを防いでいるからです。ところが、がん細胞が免疫システムの監視をすりぬけてしまう場合があり、がん細胞が免疫細胞の力を超えると、年数を経て「がん」となって発症します。そこで、免疫細胞ががん細胞より上回るように、免疫細胞を体外で増やし、強化して体に再び戻すことでがんを攻撃しようという治療法が、免疫細胞治療です。



【がん免疫細胞治療の特徴】

- 自身の血液細胞を用いて免疫細胞を再生するため、副作用が少ない
- 外科療法、化学療法、放射線治療等の標準治療との併用が可能で、相乗効果が期待できる
- 外来通院による治療であり、入院の必要がない
- がん初期から、病期の進行度により、様々な治療が可能
- 再発予防治療としての効果が期待できる

安全で質の高い医療の提供

がん免疫細胞療法評価グループ・CITEG
Cancer Immuno-cell Therapy Evaluation Group

各医療機関の臨床データを収集・解析・評価
瀬田クリニック東京
全国で免疫細胞治療を実施する医療機関

多施設共同臨床研究

【瀬田クリニックグループ認定再生医療等委員会】
再生医療等安全性確保法に基づく定期報告審査にて安全性及び科学的妥当性評価を行う

免疫細胞治療の科学的エビデンスの強化
安全性と透明性の更なる向上



無菌医薬品製造施設と同等レベルのクリーンルーム
※ 細胞培養加工管理は、(株)メディネットに委託
(株)メディネットでは「自己がん組織バンク」サービスにてがん組織の保存預託を受け付けています。

免疫細胞治療を受けられる方から採血により提供を受けた血液や細胞は、厚生労働省「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(薬機法)」基準に適合した細胞加工施設にて培養・加工し、点滴や皮下注射で投与します。細胞培養過程ではきわめて高度な安全・品質管理が行われており、細胞加工の状況については、再生医療等安全性確保法に基づき、定期的に厚生労働大臣に報告しています。また、福岡メディカルクリニックは22,000名以上、17万回以上の治療実績を持つ、免疫細胞治療の専門医療機関「瀬田クリニック東京(代表)「がん免疫細胞療法評価グループ(CITEG)」として、臨床研究登録を行い治療を行っています。

当院で実施する免疫細胞治療

当院では、用いる技術や特徴の異なる免疫療法(免疫細胞治療)を行っています。一人ひとりの患者さんの症状・状態や、現在受けられている治療との併用効果などを考慮して、もっとも効果が期待できる治療法を選択し、ご提案いたします。

活性化リンパ球治療

- (1) アルファ・ベータT細胞療法
- (2) ガンマ・デルタT細胞療法
- (3) NK細胞療法

樹状細胞ワクチン治療

- (4) 樹状細胞ワクチン療法
- (5) NKT細胞療法(2023~)

1 がん攻撃の「攻撃部隊」細胞を増殖・強化する治療法

がん細胞を直接攻撃する細胞を体外に取り出し、薬剤を用いて数千倍にまで大量に培養し、さらに一つ一つの細胞を活性化させて体内に戻します。

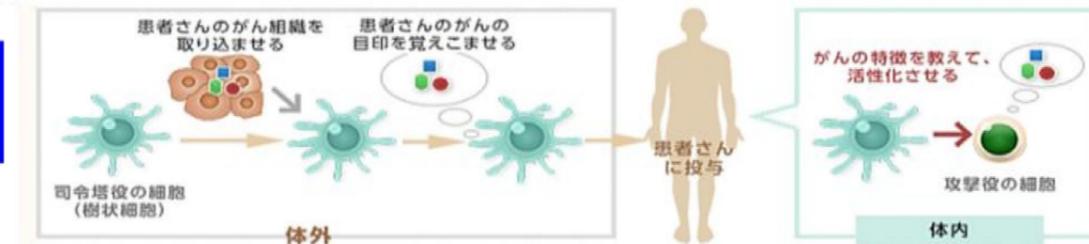
活性化リンパ球療法



2 がん攻撃の「司令塔」細胞を教育する治療法

がん攻撃の司令塔的な役割を果たす樹状細胞に、患者さんのがん細胞の特徴を覚えこませる(=教育する)などして、再び体内に戻します。

樹状細胞ワクチン療法



基本的型としては1~3週間に1回のリンパ球点滴投与、もしくは樹状細胞ワクチン皮下注射もしくは双方同時投与を行います。画像診断・腫瘍マーカー、免疫機能検査等で治療効果の評価を行います。この結果によって、適宜、治療方針を検討します。

個別医療として治療を選択するための検査

免疫細胞治療は、分子レベル、遺伝子レベルで解明されたしくみや技術をもとにも各人個別にがん細胞の特徴などを調べ、最も効果が期待できる治療法を選択することが重要です。詳細な検査を実施しています。

(検査種類)	(方法)
免疫機能検査 免疫状態を調べ、治療の種類を決め治療効果を確認する検査	血液
免疫組織化学染色検査 がん細胞の特徴を調べ、個別の最適治療を検討する検査	病理検体

がん予防医療、先制医療

福岡メディカルクリニックでは、ライフステージにおいて、がんの早期発見・早期診断を行うことで、早期の段階での検査や治療の計画策定を目指す予防医療に取り組んでいます。先制医療として、未病、がんリスク検査の異常や家族素因、生活因子で気になるなど、がん発症の確率が高いと考えられる場合、また、がん免疫機能検査で問題がある場合など、がん発症を予防する目的で、免疫細胞機能を正常範囲レベルに保つ調整などを検討いたします。

がん予防医療・先制医療

福岡メディカルクリニックでは、ライフステージにおいて、がんの早期発見・早期診断を行うことで、早期の段階での検査や治療の計画策定を目指す予防医療に取り組んでいます。

先制医療として、未病、がんリスク検査の異常や家族素因、生活因子で気になるなど、がん発症の確率が高いと考えられる場合、また、がん免疫機能検査で問題がある場合など、がん発症を予防する目的で、免疫細胞機能を正常範囲レベルに保つ調整などを検討いたします。

先制医療としての免疫細胞療法

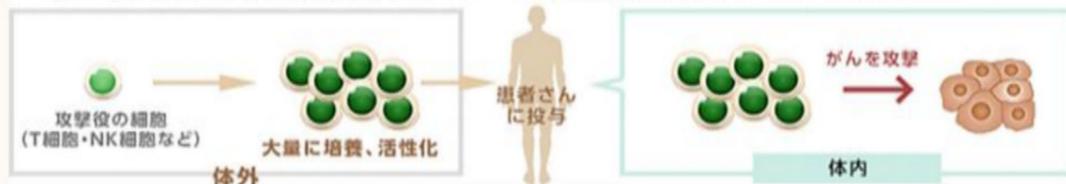
当院では、用いる技術や特徴の異なる免疫療法（免疫細胞治療）を行っています。一人ひとりの患者さんの症状・状態や、現在受けられている治療との併用効果などを考慮して、もっとも効果が期待できる治療法を選択し、ご提案いたします。

活性化リンパ球治療

- (1) アルファ・ベータT細胞療法
- (2) NKT細胞治療
- (3) NK細胞療法（樹状細胞を使用）
- (4) 再発予防としての樹状細胞ワクチン

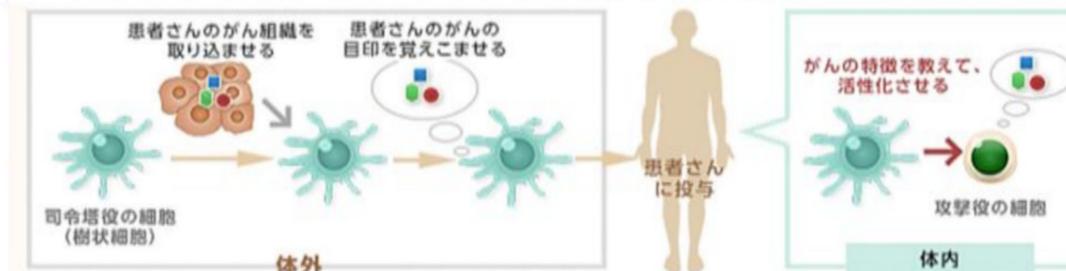
1 がん攻撃の「攻撃部隊」細胞を増殖・強化する治療法
がん細胞を直接攻撃する細胞を体外に取り出し、薬剤を用いて数千倍にまで大量に培養し、さらに一つ一つの細胞を活性化させて体内に戻します。

活性化リンパ球療法



2 がん攻撃の「司令塔」細胞を教育する治療法
がん攻撃の司令塔的な役割を果たす樹状細胞に、患者さんのがん細胞の特徴を覚えこませる(=教育する)などして、再び体内に戻します。

樹状細胞ワクチン療法



瀬田クリニックグループ：特定連携医療機関

福岡メディカルクリニック
FUKUOKA MEDICAL CLINIC

がん予防医学と先制医療

がん予防医学

CANCER PREVENTIVE
MEDICINE

がん免疫
細胞治療

ONCOIMUNOLOGY/
CANCER IMMUNOCYTE
THERAPY

先制医療
・
ウェルネス

PREEMPTIVE MEDICINE
& WELLNESS



瀬田クリニックグループ：特定連携医療機関

福岡メディカルクリニック
FUKUOKA MEDICAL CLINIC

〒812-0025

福岡県福岡市博多区店屋町6-18 ランダムスクウェア 5F

TEL 092-281-0511

FAX 092-281-0522

Mail info@scg-fmc.com

URL https://scg-fmc.com



スマートフォンの
方はこちら

診療時間 月～金 10:00～12:30

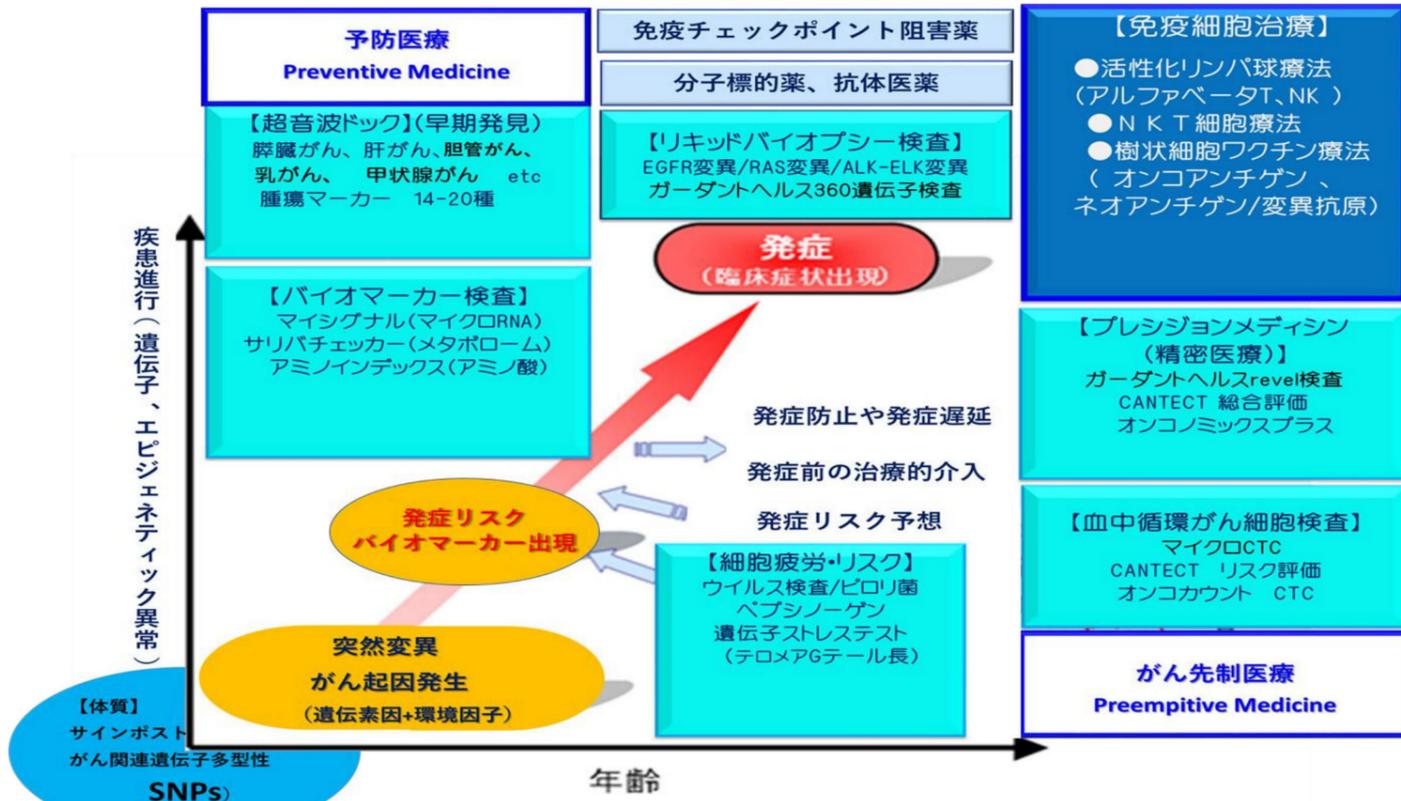
13:00～17:00

(予約制) 休診日 土・日・祝



福岡メディカルクリニックの予防医学と先制医療

福岡メディカルクリニックでは、ライフステージにおいて、がんの早期発見・早期診断を行うことで、早期の段階での治療や検査の計画策定を目指す予防医療と先制医療に取り組んでいます。



がん診療における予防医療と先制医療(概念図)

がん予防医学

がんのリスクを高める要因は少しずつ明らかになり、その要因をできるだけ排除することで「がんになりにくい体」に近づくことができます。がんの予防方法には3段階に分けられます。

① 1次予防 (体の中の微量な異常を早期チェック、ライフスタイルチェック)

普段の生活の中で禁煙・運動など生活習慣を改善する予防です。同時に、医療機関などのがんのリスク検査などで(超)早期の身体の異常を見つけ、定期的な検査などの計画を立てることができます。

[がん発見・リスク発見のための検査](一例)

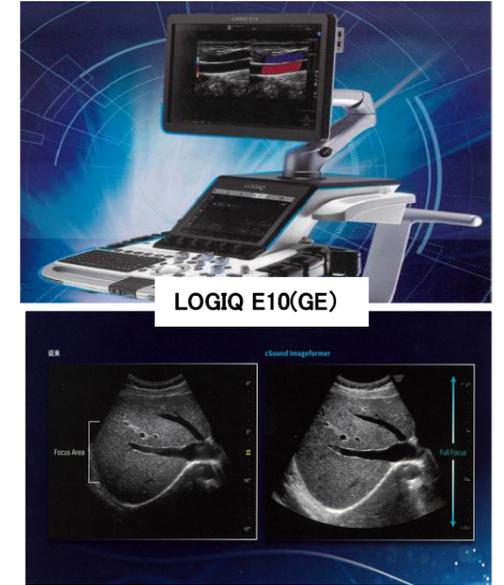
(検査種類)	(方法)	(検査対象)
サインポスト 保有遺伝子からみた病気のなりやすさを調べ、生活習慣・栄養管理を分析する検査	血液	がん・生活習慣病予測
遺伝子ストレステスト 遺伝子の疲労度を測定する検査 老化などに伴って起こる疾患を予防が目的	血液	生活習慣病予測
テロメアテスト 未病検査 遺伝子の強さを測定する検査	血液	遺伝子疲労度
ABC検診 ピロリ菌抗体と血中ペプシノーゲンを測定し、胃がん発生のリスクを調べる検査	血液	胃
アミノインデックス アミノ酸バランス変化により各種がんの早期発見やリスクを調べる検査	血液	胃・肺・大腸・膵臓・前立腺・乳・子宮・卵巣
サリパチェッカー がん細胞から由来の代謝物質の濃度を解析、がんリスクを調べる検査	唾液	口腔・肺・大腸・膵臓・乳
腫瘍マーカー検査(各種)	血液	

② 2次予防 (がん早期発見、臓器特化型超音波診断検診+腫瘍マーカー検査)

1次予防で食事や運動・環境に気をつけた生活をしていても、100%がん発症を予防することはできません。そこで、がんをできるだけ早く発見することが、2次予防になり、がん検診を効率よく、定期的を受けて、早期の段階で見つけることで早い段階での治療も可能となります。

[臓器特化型がん精密検診(超音波ドック)](参考)

ドック項目	超音波検査部位	検査項目(血液)
スーペリア 総合ドック(男性)	膵臓・肝臓・胆嚢・腎臓・副腎・甲状腺	血液・生化学・腫瘍マーカー等 (14-20種類) ※甲状腺ドックのみ 甲状腺機能検査追加
スーペリア 総合ドック(女性)	膵臓・肝臓・胆嚢・腎臓・副腎・甲状腺・乳腺	
膵臓ドック	膵臓・胆嚢	
肝臓、胆のうドック	肝臓・脾臓・胆嚢	
腎臓、副腎ドック	腎臓・副腎	
乳腺ドック	乳腺	
甲状腺ドック	甲状腺	



当院では早期発見の為に、一般のがん健診よりも高精度な診断機器によるドックを行っています。CT画像に近い診断能力を備えた高性能な超音波診断機器(GE LOGIQ E10)を使用します。超音波検査はCT検査などとは異なり放射線を使わない安全な検査です。

③ 3次がん予防 (再発予防/がん細胞早期検出検査)

「がんの転移、再発を防ぐ」という意味での予防です。がん治療ののち、必ず転移、再発するわけではなく、再発予防が必ず必要ではありません。また、再発する確率はあらかじめ予測できるものでもないと考えます。転移を含む再発を防ぐ3次予防について対策として、再発を予測するための検査が一つの方法です。

[がん再発早期発見のための特殊検査](参考)

(検査種類)	(方法)	(検査対象)	(関連治療)
CanTect がんリスク評価 血液中のDNA濃度とRNAを調べがんリスクの数値化	血液	がん全種	
CanTect がん総合検査 血液中のDNA濃度とRNA、がん抑制遺伝子の異常発症 リスクの数値化	血液	がん全種	抗がん剤
マイクロCTC 循環腫瘍細胞の有無、腫瘍細胞数を調べる検査(再発チェックなど)	血液	全種(固形がん)	
オンコカウント(CTC)/オンコノミックス プラス(GSC) 循環腫瘍細胞の有無と濃度(数)等を調べる検査	血液	全種(固形がん)	抗がん剤 分子標的薬
マイクロアレイ メッセンジャーRNAを測定、がん異物反応を評価、リスクを調べる検査	血液	胃・大腸・膵臓・胆道	
マイシグナル がん早期発見検査 がん特異的な因子(マイクロRNA)を検出、(超)早期発見を行う検査	尿	乳腺・膵臓・胃、食道・大腸がん	

先制医療とは

がんリスク検査異常や家系、生活因子、がん発症の確率が高いと考えられる場合、免疫機能異常の有無など、がん(再)発症予防する目的で、免疫細胞機能バランスを正常範囲レベルに保つ治療などを行う考え方です。

(検査種類)	(方法)	(検査対象)	(関連治療)
免疫機能検査(フローサイトメトリー) リンパ球など免疫機能の状態をチェックする検査	血液	免疫細胞群	免疫細胞治療

2人に1人が、 がんにかかる時代です

がんに関わる心配事、例えば辛い治療やお金に関する不安は、がんを早期発見することで大部分が解決できます。2人に1人ががんと診断される時代ですから、今こそがんと向き合い、早期発見のための行動を起こしてみませんか。

いつまでも
健康でいたい

つらい治療は
受けたくない

人の世話に
なるのは嫌

趣味も
仕事も
充実させたい

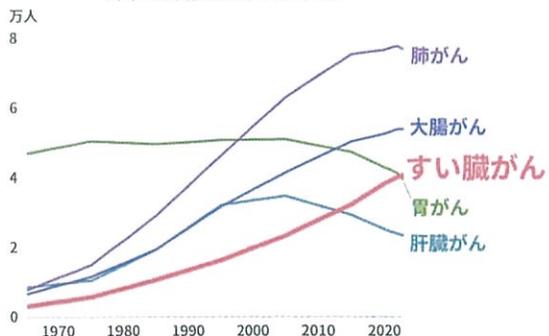
お金が
心配…



すい臓がん、ついに死亡者数第三位のがんへ。 早期発見が難しいことが特徴。

日本では、毎年3万人以上の方がすい臓がんで亡くなっており、年々増え続けています。確立された検査がなく、初期段階では症状がほとんど出ないため、すい臓がんと診断された人の約半分がステージIVで見つかっています。

日本の各種がんの死亡者数



厚生労働省「人口動態統計 2023」、国立がん研究センター「がん情報サービス 院内がん登録全国集計2021」

miSignal マイシグナル

本検査に関するお問い合わせ

マイシグナルカスタマーサポート

TEL **050-1753-8393**

10:00~16:00(土・日・祝日、年末年始除く)

※1 全国がん罹患モニタリング集計 2009-2011年生存率報告(国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター、2020)、独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」平成22年度報告書 ※2 がんが原発臓器に限局しているもの ※3 遠隔臓器、遠隔リンパ節などに転移・浸潤があるもの ※4 文部科学省「がん教育推進のための教材」スライド教材モジュール3:がんの発生と進行 ※5 厚×AI×マイクロRNAを用いたがんリスク検査サービスとして(第三者機関調査) ※6 Urinary MicroRNAs as Biomarkers for Early Detection of Ovarian Cancer. ESMO. 2021 Sep. Paris, France ※7 Minerva Med. 2020; 111(2): 133-140. ※8 マイシグナル・スキャンの場合

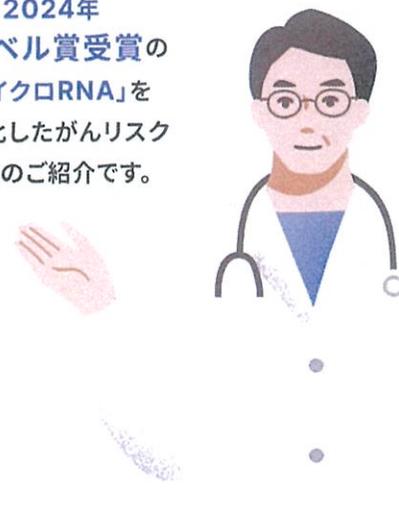
miSignal マイシグナル

もっと手軽に

受けよう
がんの検査

尿で手軽に早期発見へ

2024年
ノーベル賞受賞の
「マイクロRNA」を
実用化したがんリスク
検査のご紹介です。

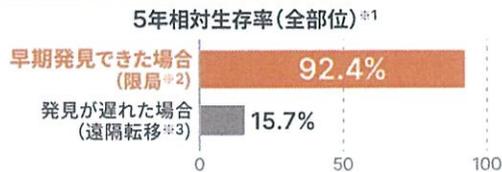


詳しくは受付へお問い合わせください

がん治療で最も大切なこと、それは早期発見です。

がんは早期発見ができれば、生存率が大幅に上昇します。早期発見ができることで治療の体への負担が小さいだけでなく、経済的なメリットもあります。治療にかかる費用が少なく済み、仕事や日常生活に早く復帰することができます。

① 5年生存率が上昇!



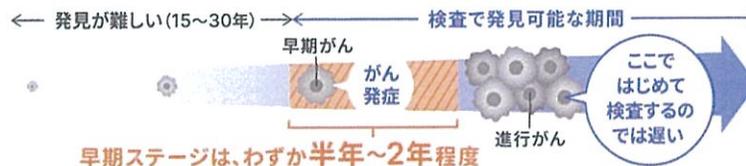
② 治療の体への負担や経済的負担が小さくなる



がんは進行するほど治りにくくなり、治療による体への負担も、経済的な負担もより大きくなります。がんを早期発見できれば、より早く日常生活に復帰できます。

しかし、がんの早期発見にはタイムリミットがあります。

一般的に検査で発見可能な早期がんの期間は短く、がんによっては半年～2年程度とされているものもあります*4。定期的な検査で早期発見のタイミングを逃さないことが重要です。



がん進行スピードの例 ▶



がんの早期発見には、**定期的なリスクの確認で早期発見のタイミングを逃さないことが重要**

マイシグナル・スキャンは、血液検査(腫瘍マーカー等)と比較して、より早期ステージのがんリスクの検出に強みがあるのが特徴です。通常の検査の痛みや不快感が気になる方にもご利用いただきやすい検査です。

検査を避けてきた方にもおすすめ

がんの検査の例

	血液検査 血中酵素、腫瘍マーカー	内視鏡検査
検査の概要	採取した血液中の腫瘍マーカーなどの数値の増加を確認し、がんの疑いを調べる	内視鏡を体内に挿入し、色や状態を確認することで、がんの疑いを調べる
検査前の制約	検査前の食事制限を指示される場合あり	食事制限あり
身体的負担	針を刺すため、若干の痛みあり	痛みや違和感
早期発見への適正	× 一部の腫瘍マーカーや、症例によっては早期がんでも上昇する場合があります。	○

マイシグナル・スキャン

尿中のマイクロRNAを抽出・測定し、AIによる解析を通じてがんリスクを判定する

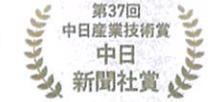
検査前の制約	なし
身体的負担	なし
早期発見への適正	○



尿でがんリスク検査

GOOD DESIGN AWARD 2024

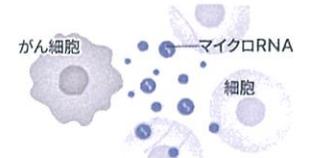
高精度なAIで、がんリスクを早期発見
miSignal SCAN



1 マイクロRNAを見る、マイシグナル・スキャン

ノーベル賞を受賞した「マイクロRNA」を実用化!

マイクロRNAは細胞間のコミュニケーションを担う伝達物質。マイクロRNAを詳しく見れば、がんの活動が早期からわかります。



2 ステージ1から早期発見

マイクロRNAを用いた安定的な検査を、尿を用いて実現。がんリスクの早期発見に適しています。

3 すい臓を含む男女計10がん種*のリスクを判定

腫瘍の大きさ・
感度 98.21%*6 尿によるがんリスク検査
画像検査
感度 54.40%*7 腫瘍マーカー
卵巣がんを対象とした研究データ



* 乳がん・卵巣がんは女性のみ、前立腺がんは男性のみ

限りなく手間がかからないから受けやすい



詳細な検査結果をまとめた見やすい結果表で、万一の検査後のステップも明確

